

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028
法人名	社会福祉法人 寿真会
事業所名	グループホームらくえん倶楽部
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 18 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 2 月19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナが終息していない中で、思うようにドライブにも行けず、家族とも出掛けることが出来ていない日々を、苑の中で併設の特養と一緒に、七夕祭り・秋の味覚フェア等を行い季節折々の行事を取り入れ過ぎていきます。そんな中でも、入居者様達は笑顔で楽しく生活を送られているように思います。大好きなカラオケは好評で月に何回も行っています。苑の周辺は田園地域であるため、季節に応じた景色を眺めることが出来ています。健康面でも、看護師が在籍しているため、急な体調変化にも直ぐに対応ができ、かかりつけ医も近い場所にあるので家族も入居者様も安心して生活出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームらくえん倶楽部は、同法人の特別養護老人ホームに併設される形で設置されています。そのため単独のグループホームとは異なり、特別養護老人ホームとの関係も深く、同じ行事を通じて利用者同志が顔を合わせ、馴染みの関係性を築いていく人もいます。日常的に基本となる介護(食事・入浴・排泄等)に対して、職員一人ひとりが目的意識をもち、より良いサービスの提供に努め、グループホームの基本理念である「安心して、心豊かな生活ができる我が家」を目指した取り組みが行われていました。職員の方々も元気で明るく、利用者本人の意思を尊重して対応してくれるアットホームなグループホームであると、ご家族からも好評でした。また、地域の医療機関と連携した医療サポート体制が充実していて、緊急時には特別養護老人ホームの看護師さんが対応して下さい、安心して生活できる形態となっていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) <b>(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)</b>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、全員が実践できる簡単な目標を作り掲示している。ミーティングで確認し共有している。	法人の理念及び、グループホームの目標が入口に掲示されていて、誰でも見られる状態になっていました。グループホーム独自の目標を設定して、職員ミーティングで共有し実践に繋げていました。目標はヒヤリハット事例や24時間シートを基に設定されていて、より具体的な内容で分かりやすいものになっていました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナも五類に移行されたが、まだ地域との交流はしていない。	新型コロナウイルス感染症防止のため、地域との交流は思うように行われていませんでした。コロナ禍以前に行われていたオレンジカフェは、十分な対策を講じて、今後行っていく計画となっています。地域との関係として、災害時に地元自治会へ避難できる協定ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、まだ地域の方々との交流は控えているため活かされていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	本年度は7月・9月・11月と3回対面での会議が実施できた。コロナに関係する意見や質問も出た為、サービスの向上に活かせるように努力している。	昨年度までは新型コロナウイルス感染症防止のため、書面による開催となっていました。本年度は既に3回の対面形式での会議が開催されています。参加者は事業所以外のメンバーとして、市の職員、民生・児童委員、地域住民代表、家族代表、利用者代表となっていて、会議ではコロナ関連の質問が多く出されていました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍に於いて会議等もなかったため、運営推進会議で来苑された時に情報交換を行った。	市が主催して行われる、認知症を考える会、事業者連絡会等への参加を行い、意見交換や情報の共有を図っています。また、市の高齢者介護課職員との連絡、訪問等も行われ、協力体制をとっていました。市担当者の運営推進会議への参加時に、グループホームの内容についての情報提供を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において、身体拘束について学び現場で活かしている。	身体拘束については現在事例はありません。身体拘束委員会、虐待防止委員会を定期的に開催し、具体的事例に基づいた禁止事項についての研修を行っています。グループホームの玄関の施錠は、家族等に説明・了解を得て、必要に応じロックをする対応がとられていました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、施設内研修で学び、虐待防止委員会で検討しながら虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で制度について学び、必要性に応じ活用できるよう努力している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、丁寧な説明に努め不安や疑問点はその場で解決できるように努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名( 花梨 )	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月末に家族会を開催したため、意見交換ができた。家族会の中で聞けた意見要望等はこれからの運営に反映していきたい。	新型コロナウイルス感染症防止のため、家族会の開催を数年間でできませんでしたが、昨年9月に久しぶりに開催し意見交換をすることができました。若い家族の方からしっかりと意見を出して頂き、運営へ反映することができています。その他にも日常の関わりの中から要望や意見をお聞きする体制がとられています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで、意見を聞き入れる事が出来ている。	管理者との面接を年2回(3月、9月)実施して、職員の意見を聞く機会を設けていました。出された意見は集約され、職員会議等で協議、共有し、グループホームの運営に活かされていました。また、毎月の職員会(ミーティング)時に、職員の意見を聞く機会があり、グループホームの運営に反映されていました。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与もあり、長年勤務者への表彰も行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	5類に移行され少し落ち着いてきたため、外部研修への参加が可能になり積極的に参加し取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会の研修へ参加し、交流の機会を作り質の向上へ向けて努力している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知があるため、本人からの要望を上手に聞く事が出来ないこともあるが、家族から聞き取り本人が安心出来る関係づくりに務めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい環境に慣れる事が出来るのか、不安や心配事が沢山あると思うので、丁寧に傾聴しながらこれからに向けての信頼関係を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が中心になり、カンファレンスを行うことで、必要としている支援を見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を作り、入居者様に寄り添いながら、職員・入居者同士信頼関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 花梨 )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナも緩和され5類になった事により面会規制も緩和し、相談室で面会出来るようになり、家族も本人も一安心したところである。職員とも対面で話が出来ようになり、一層安心してもらえ情報共有もでき信頼関係を築く事が出来ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出も受診以外は控えて頂いている中で、馴染みの人達とも会っていないので、職員が把握している範囲内で会話をしたり昔の写真を見たりしている。	コロナ禍以前には、馴染みの方でグループホームに訪問される人や、地域のお祭りの時に声をかけてくれる人もいましたが、現在は交流ができない状態となっています。利用者の実家の近くへドライブに出かけたり、最寄り道の駅へソフトクリームを食べに出かけたりすることが時々行われていました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日中居室へ籠っている方もいないため、入居者様同士会話を弾み、困っていれば声をかけたりしながら、職員も中に入りお互いが良好な関係で支えあっている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域で生活している職員もいるため、会えば挨拶もしたり声を掛けられる事もある。時には、施設へ連絡を下さり情報を頂く事もあるため、入居時同様の関係を大切にしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や意向を把握する様に努めている。困ることがあれば担当者会議にあげている。	利用者の会話等から直接お話を聞き取れる方が少ないため、普段の生活の中での表情や仕草、態度から、一人ひとりの思いや意向の把握を行い、担当者会議で共有されていました。また担当職員の他に、介護支援専門員が、利用者の意向の把握に努めていました。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴を基に家族からも直接聞き取り、今までどのような生活をしてきたのか把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れは、24時間シートを活用することで把握し、出勤時の申し送りでも近況は把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットミーティングや、日々の生活の中で気付いた問題点は、介護支援専門員からの発信で担当者会議を行い、チームで意見を出し合い介護計画に反映させている。	毎月行われる職員会議(ミーティング)の後に、利用者担当職員と介護支援専門員が情報交換を行い、課題や問題点、目標等についての確認を行い、本人・家族の意見を反映して介護計画の作成が行われていました。計画は短期目標が3か月、長期目標が6か月となっており、チームによる計画策定となっていました。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを利用し、個人ケース記録に残し職員間で共有し、介護計画の見直しに反映させている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な対応が出来る様に、他部署多職種と連携をとり、柔軟な支援に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	第三者等の面会をまだ規制しているため、地域資源の活用は出来ていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明を行い、納得していただければ、今までの医療機関より変更してもらい、受診や往診が適切に受けられるように支援している。	グループホーム利用前のかかりつけ医を継続していくか、入居後にグループホーム契約医療機関をかかりつけ医にしていけるか、説明をして選択できる体制となっていました。かかりつけ医が変更された場合は、近隣の診療所が協力医療機関となっており、受診・往診等の医療支援が行われていました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養と併設されているため、常駐している看護師と常に情報共有し相談にのってもらっている。急変や困った事はスムーズに主治医に繋げることができている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣にある主治医の病院へ入院する際は、日々の情報共有も出来ているため安心して治療できている。往診も行っているため、病院関係者との関係も良好である。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を丁寧に説明している。重度化した場合や終末期も含め、他職種・主治医と連携を図りチームで支援に取り組んでいる。	利用者の重度化や終末期の対応については、グループホームへの入居時に分かりやすく説明がされています。利用者及び家族の希望がある場合、グループホームでの看取りを実施しています。その場合、家族の方に付き添いをしてもらうこともあり、信頼関係に基づいた対応がとられていました。隣接する特別養護老人ホームの看護師の協力を頂く体制も確立していました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修が対面で行えているので、応急手当やAEDの使い方も訓練し身に付けている。急変時や事故発生時は、マニュアルに従い対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人としての訓練は行っているが、地域を巻きこんでの訓練はまだ行っていない。今後、協力体制を築けるように努力していきたい。	年2回、法人全体での防災訓練、避難訓練の実施が行われていました。また、消防署による講習会も行われていました。グループホームの設置されている地域は、市の災害マップでは水害指定地域となっているため、対策が講じられています。隣接する特別養護老人ホームは市の指定避難場所になっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修で、「接遇」「権利擁護」「身体拘束」「虐待防止」等を学び、実践で活かせるように努めている。	利用者の尊重とプライバシー保護についての研修が、法人として定期的に行われていました。利用者の居室については、大切なプライベート空間として、入口の戸はしっかり閉める、暖簾を掛けておく等の配慮がされていました。また居室の鍵は、内側から掛けられる構造となっていて、プライベートな場所への対応が図られていました。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話や行動から、本人の思いや要望を受け入れ自己決定に繋げられるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先でその日を過ごせる様に、一人一人のペースを大切に職員は寄り添い支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参している衣類の中から、自己決定できる方にはしてもらい、困難な方には職員が選び選択できるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナも緩和されてきたが、職員と一緒に食事は摂っていない。入居者様には下膳やテーブル拭きを手伝ってもらっている。	畑で収穫された、トマト・ナス・キュウリなどの野菜を食材として使用していました。利用者の方と一緒に食事を作ったり、下膳やテーブル拭き等の役割を持ってもらっていました。また、テーブルや席順、食事のメニューについても配慮がされ、食事を楽しく食べられるための工夫がされていました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成しているため、栄養バランスは考えられていると感じている。入居者様の水分補給は困難な事も多く、水分ゼリー等をりょうして補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っているが、拒否も多くみられる事もあり苦慮している。毎週デンタルサポートにより歯科受診もしているのので口腔状態を見てもらい清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人の排泄パターンを共有し、時間で声掛けを行うことで排泄の失敗を防いでいる。	利用者一人ひとりの排泄の特徴や様式を把握して、職員間で共有し、自立に向けた支援が行われています。オムツやリハビリパンツをできるだけ着けないようにして、トイレでの排泄支援ができるように取り組んでいました。排泄の失敗を少なくするために、定時による排泄の声掛けを行っていました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にはなるべく新鮮野菜を使い、こまめな水分補給に努め、ラジオ体操で体を動かし個々にあった取り組みに努めている。排便が3日ないときは、主治医の指示のもと服薬にて排便コントロールしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。職員の配置の関係で午後入浴はあるが個々にあった支援で行っている。	入浴は原則週2回の実施となっておりますが、毎日入浴ができる体制になっていて、希望があれば実施できるようになっていました。入浴時間は午後の決められた時間となっておりますが、安全性や羞恥心に配慮しながら、楽しくつろげる入浴になるような取り組みが行われていました。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はなく、一人一人自由に休息したり夜間就寝されている。介助が必要な入居者様はコールやセンサーマットを使用して頂く事により安心して休んでもらっている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホームらくえん倶楽部**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書をユニットに置くことにより、いつでも確認することが出来ている。服薬支援はマニュアルに沿って行い、症状の変化があるときには看護師に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌うことが好きな方が多いので、月に3回程度でカラオケを行っている。パズルが好きで毎日していたり、散歩に出掛けたり、職員の手伝いをする事で喜んで貰えることもあり、一人一人にあった支援をしながら気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前と同じようには出来ず、苑周辺を散歩したり、中庭でお茶を飲んだりしながら気分転換を図っている。	新型コロナウイルス感染症防止のため、グループホームの近隣での散歩や中庭で過ごす等の外出に留まり、思うような外出支援はできていませんでした。コロナの規制も徐々に穏やかになってきており、管理者からは新年度(令和6年度)には、四季折々の外出(お花見や紅葉狩り等)や外食、帰省ができることを目標としていきたいとお話がありました。	新年度の目標としても、外出等をできるだけ増やしていくことが挙げられています。感染症の対応も5類となり、穏やかさを見せている現状ですので、十分な感染症防止対策を行う中で、利用者一人ひとりの状況に合わせた外出企画が、より積極的に行われることを期待致します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、個人でお金を持つことを控えて頂いているため、希望があればお預かり金の中から希望に添えられるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用を制限していないため、自由に使って貰っている。充電が困難な時は職員が都度対応している。今、手紙を書いて投函している入居者様はいない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の壁を利用して、季節折々の風景等を折り紙やシールを使い入居者様と一緒に制作している。誕生日や記念日には家族からの花束や鉢植えが届くため飾っている。	廊下や共有空間の壁には、行事等の写真や、四季折々を感じられる飾りつけを、利用者の方と一緒に作り、季節感あふれる、居心地の良い空間となっていました。共用空間ではテレビの視聴の他に、パズルやかるた等も行われていました。また、カラオケは利用者の方に人気があり、好みの歌をうたい笑顔で過ごされる方が多くいました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前のソファに思い思いに座り会話を楽しんでいる方もいれば、食席で遠くからTVを見たり、新聞や本を読んで地涌に過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使用していた家具を搬入してもらうことで、居心地の良い空間を提供できている。	全面南向きの部屋の構造となっていて、居室は太陽が入り明るい空間となっています。ベッド、洗面台、チェストはほとんどの設置設備となっていますが、利用者によってはタンスや位牌を持ち込んだり、畳を敷いて、こたつを使用している方もいました。それぞれの居室が工夫され、過ごしやすい場所となっていました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人勤務時以外は、ユニットの施錠はせず開け放し自由に過ごしてもらっている。所在確認は怠らないように注意している。			